

## 1. 2 徳川美術館の見学（国語分野）

### (1) 研究開発の課題（研究概要）

実際に日本の文学と関わりのある建造物や、文化施設を訪れて、その風土に触れ、書物や絵画、彫刻、工芸品などを間近に見るという体験を通して、日本の文学や文化に対する興味・関心を深める。

### (2) 研究開発の経緯

国語科のワークショップは、国語に対する興味・関心を高め、教養を深めることを目的に実施している。愛知県西尾市の岩瀬文庫、三重県多気郡の斎宮歴史博物館と京都府宇治市源氏物語ミュージアム、名古屋市の徳川美術館等で行っている。今年度は8月20日に名古屋市にある徳川美術館を見学した。

### (3) 研究開発の内容

#### ア 仮説（ねらい、目標）

本事業は、文学への関心や豊かな発想力・深い洞察力を促すことができる。さらに教養を深めることで自己理解が高まることが期待できる。

#### イ 研究の内容・方法

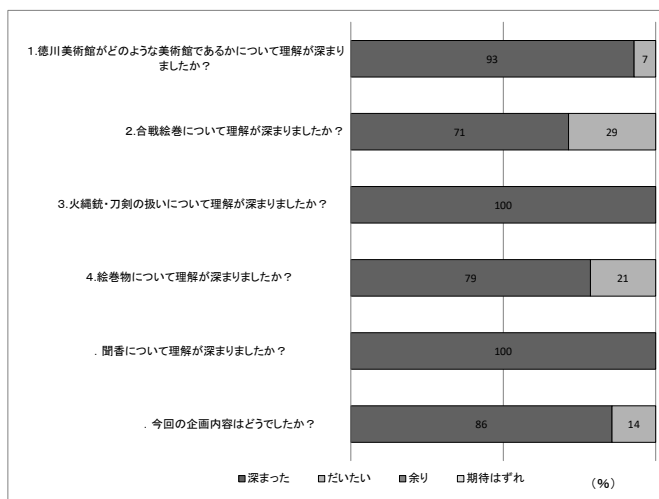
- 該当教科 SSH国語総合  
対象生徒 全学年の希望者 14名  
実施場所 徳川美術館  
実施内容
- ・合戦絵巻の鑑賞の仕方の理解
  - ・源氏物語絵巻の鑑賞の仕方の理解
  - ・問香の体験
  - ・刀、火縄銃の仕組みについての理解



講義の様子

#### ウ 検証（成果と反省）

参加した生徒がほとんど一年生であったため、まだ軍記物語、『源氏物語』を学習していないが、講師の丁寧な指導もあり、十分に理解できる内容であった。アンケート結果でも各質問項目に対して肯定的な回答が多く、このワークショップへの参加をとおして、生徒の理解に繋がり、教科に対する関心も上がったようである。



#### 生徒の感想から

- ・火縄銃や刀剣の扱い方を細かく教えてもらい、実際に体験することもでき、普段経験できないことを解説してもらいながら体験できたのが良かった。
- ・普段は展示品を見るだけのところも、詳しく説明が聞けて理解が深まった。
- ・私は源氏物語を以前読んだことがありましたが、先生による説明や絵巻物を見学することで、知識がさらに深まりました。
- ・火縄銃・刀剣の扱いや解体を体験して、昔の人の技術の高さに驚いた。

